

『魅せる』『伝わる』色彩コミュニケーション!!

どんな人にとっても伝わりやすい配色とは？

カラコミュvol.9では、大多数の人が感じる色の見え方と、色覚多様性の人の色の見え方の違いについてお伝えしました。色覚に障がいがある人は「色の見え方が異なる」と同時に「特定の色同士が判別しにくい」とされ、一般的に目立つと思われる配色が、実は色覚多様性の人にとっては判別しにくかったという事実があります。

今年は九州をはじめ、各所で記録的な大雨が観測されました。そこで「大雨警戒レベル」の危険度の違いをわかりやすく伝えるためには「配色を統一させ色のイメージを定着させる」「様々な色覚の人にも可能な限り分かりやすいものにする」ことが必要とされ、危険度5段階の配色が以下のように変更されました。



様々な色覚の人*を対象に検証調査を実施。

1. それぞれの色の違いが見分けやすいか？
2. その色が示す危険度や切迫感の印象を感じやすいか？

この2つの観点から色が決定したそうです！

*一般色覚・1型色覚・2型色覚・ロービジョン者

変更前 の大雨警戒レベル

警戒レベル	避難行動など	色
5	命を守る行動を	濃い紫
4	全員避難	紫
3	高齢者など避難	赤
2	避難行動の確認	黄
1	気象情報に注意	白



現在 の大雨警戒レベル

警戒レベル	避難行動など	色
5	命を守る行動を	黒
4	危険な場所から避難	紫
3	高齢者など避難	赤
2	避難行動の確認	黄
1	気象情報に注意	白

警戒レベル5 -黒-

レベル4の紫との差別化を図るため、濃い紫が黒に変更されました。純色である完全な黒が『死』を連想してしまうことを避けるため、RGB値で見るとわずかに色が付けられていることが分かります。



警戒レベル4 -紫-

2型色覚を持つ人は、紫を赤紫に寄せすぎると緑やグレーとの区別がつきにくくなります。青紫に寄せた方が区別しやすくなりますが、寄せすぎると紫ではなく青に近く感じられ「不安だ」「危険だ」というイメージが薄くなってしまいます。そのため、ちょうど中間の色合いに調整されています。



警戒レベル3 -赤-

1型色覚を持つ人は、濃い赤が一般の人よりも暗く地味な色に感じられ、黒や紫の区別がつきにくくなってしまいます。RGB値でG(緑)の値を増やして若干オレンジに寄せることで、レベル4の紫、レベル5の黒と区別がしやすくなっています。



警戒レベル2 -黄-

白内障の人は、明るく鮮やかな黄は白との区別がつきにくくなっています。また、高齢者はコントラストの低い組み合わせが苦手なので、少しオレンジに寄せ、黄(注意のイメージ)に感じられる範囲でなるべく濃い色に調整されています。



デザインの種

今回のテーマ：
「UD※に基づいた資料作り」

※ユニバーサルデザインの略称。全ての人のためのデザインのこと。

まずは、色覚に障がいを持つ人とそうでない人、それぞれ見え方の違いを知ることが重要です。理解することによって、全ての人にやさしい資料作りをしていきましょう！

色の組み合わせで見せ方を工夫！

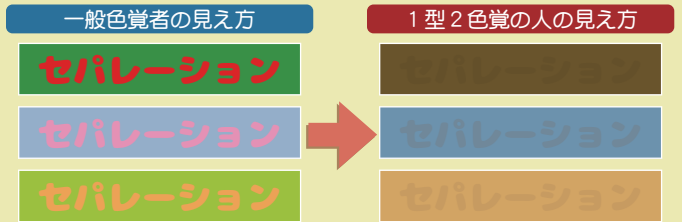


色覚に障がいを持つ人は赤と緑が似た色に見えてしまうため、右上↑のように色の区別がしづらくなってしまいます。そこで、左下↓のカレンダーのように色の組み合わせを変えてみましょう。色の違いがわかりやすくなりましたね！

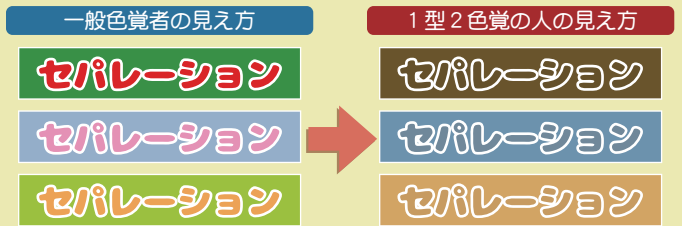


セパレーションによって見せ方を工夫！

セパレーションとは、曖昧な配色を判別しやすくするため、または高彩度の色を組み合わせた際に生ずるギラつき（ハレーション）を防ぐために、色と色の間に区切り色を挟み込む方法です。



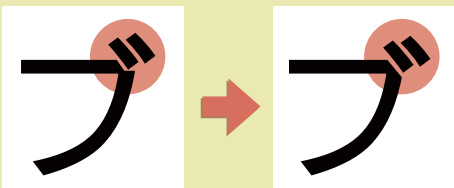
左上↑の配色は、1型2色覚の人にとっては右上↑のように見えてしまいます。こんな時はセパレーションを活用してみましょう。



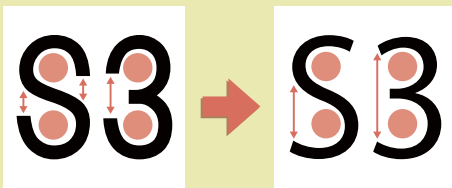
色と色の間に白を挟み込み文字を縁取ることで、識別しやすい色の組み合わせも見やすくなっていますね！

UD フォントの一例

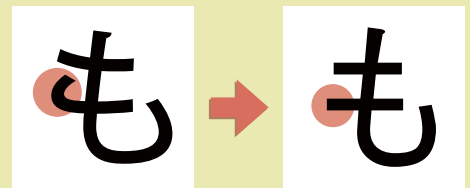
濁点部分の隙間を十分確保して、視野を高める！



空間を確保して、誰が見ても判別しやすく！



まぎわらしい画線をなくして、シンプルなデザインに！



ユニバーサルデザインには色彩の配慮のほか、読みやすさの向上と誤解を防ぐために、書体デザインにもいくつかの工夫がされたUDフォント(ユニバーサルデザインフォント)が注目されています。年齢・性別や障害に関係なく、あらゆる人が快適に利用できるような正確な情報の伝達に役立っています。

イロイロ雑学

～ランドセルの歴史～

今ではカラフルでおしゃれなものが増えたランドセルですが、かつてのランドセルの色は黒と赤がほとんどでした。この理由には諸説あるようですが、当初牛革を染める際に色ムラが出にくい色が黒と赤だったようです。染色技術が発達しても、牛革ランドセル

=黒(男児用)、赤(女児用)というイメージが強く、他色をランドセルに使う事はほぼなかったようですが、更に開発が進み、昭和60年代には人口皮革「クラリーン」が開発されます。この頃からカラーバリエーションが飛躍的に増えたと言われています。学用品にも個性やオシャレさを求める昨今では「十人十色」のランドセルが当たり前になりつつありますね。ちなみに、近年人気上昇中のカラー

は、男児はモスグリーン(暗い黄緑色)、女児はブラウン(茶色)だそうですよ。



色彩を使った印刷物で、より良いコミュニケーションを！

次回も

Let's カラコミュ!!